

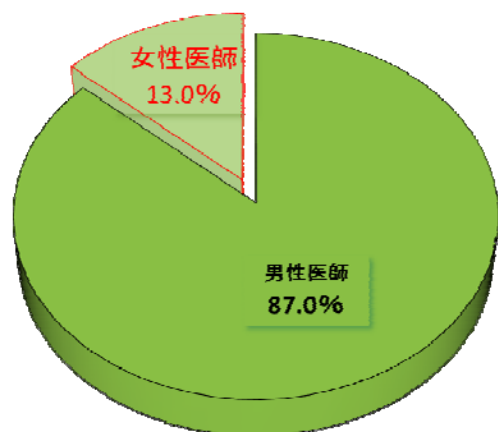
日本医師会女性医師支援センター事業 北海道・東北ブロック会議  
平成30年10月20日(土)午後3時～ ホテルメトロポリタン仙台

# 山形県医師会女性医師支援活動報告

山形県医師会 副会長  
神村 裕子



## 男女別会員数割合



会員数 1,710人(準会員含む)

男性医師:1,487人(87.0%)

女性医師: 223人(13.0%)

## 山形県の女性医師支援組織



県からの業務委託により山形県医師会の中に事務局があります。

山形県医師会では女性医師支援のための特別の部門(女性医師支援センター等)は持たず、平成24年度より**勤務医部会**の事業項目としています。また、県の地域医療対策課との連携を強化しています。

# 山形県女性医師支援ステーション

山形県医師会が山形県より委託を受けています

YJISS

山形県女性医師支援ステーション

## 【目的】

山形県内で働く女性医師をサポートし、将来にわたって家庭生活と仕事を両立し続けることができる環境づくりを進めることを目的として、平成27年9月に開設しました。

## 【事業】

- 電話・メールまたはFAXによる相談に対応します。
- ホームページ上で、キャリアパス、子育て、イベント等の各種情報提供を行い、交流掲示板を設置しております。
- 女性医師へのインタビューを掲載して、医師を目指す女子学生や若手女性医師へのメッセージの発信を行っています。

# 山形県女性医師支援ステーション

## 女性医師インタビュー

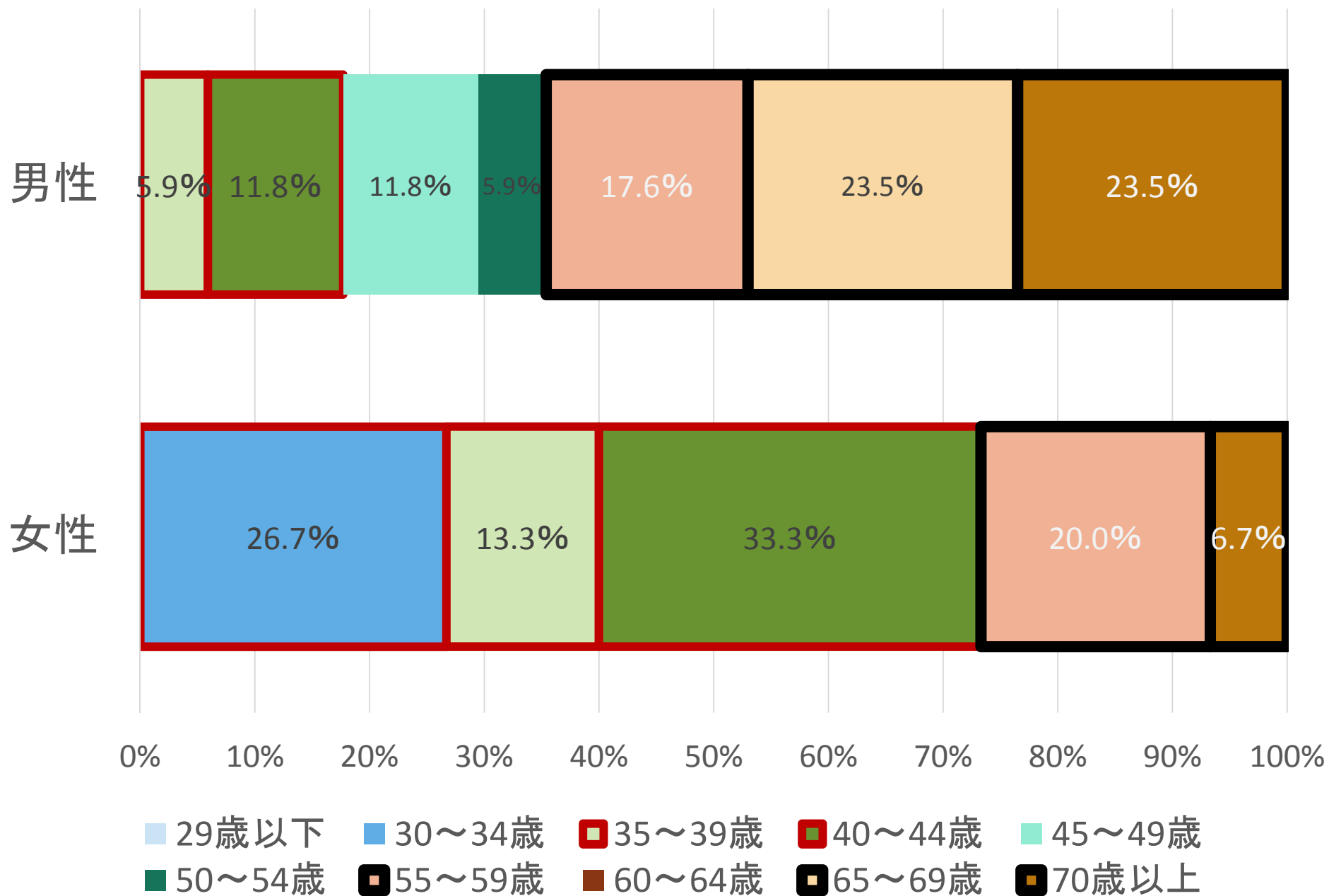


インタビュアー 間中常任理事

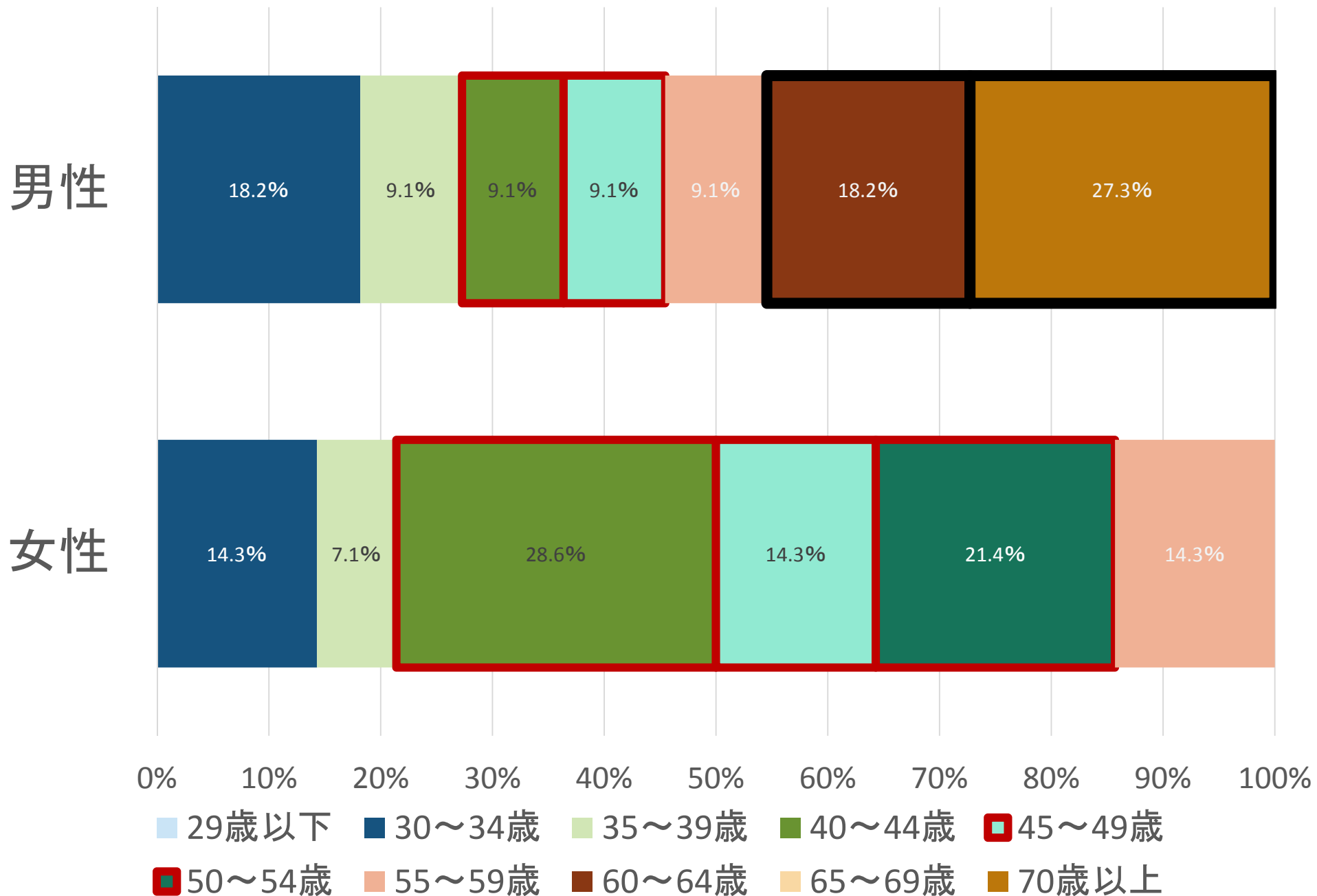
これまでに8名の女性医師にインタビューし、育休の過ごし方や、復職する時の不安、病院の支援制度、後輩の女性医師や女子医学生へのアドバイスなど、インタビュー記事にはたくさんの貴重な経験談や情報が掲載されています。

# 病院勤務医の勤務環境に関する調査の実施

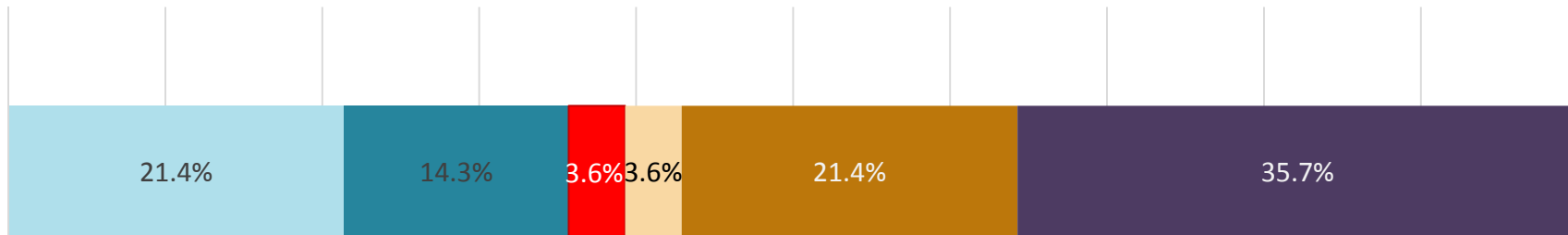
# 週40時間未満の短時間常勤勤務(性別)



# 週40時間未満の非常勤勤務(性別)

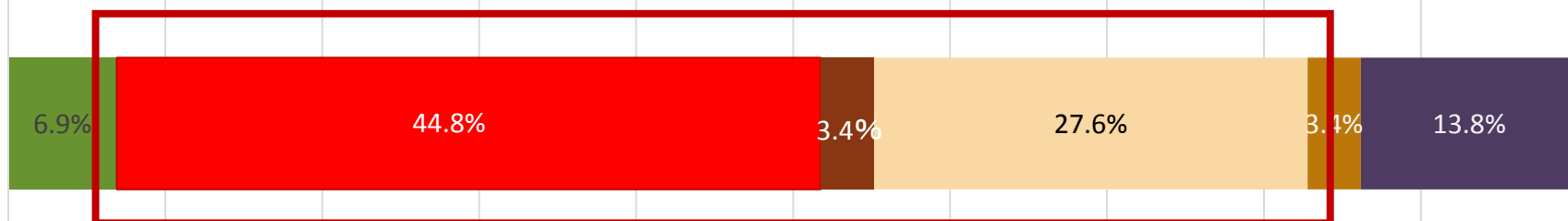


男性



## 短時間勤務形態を選択している理由(性別)

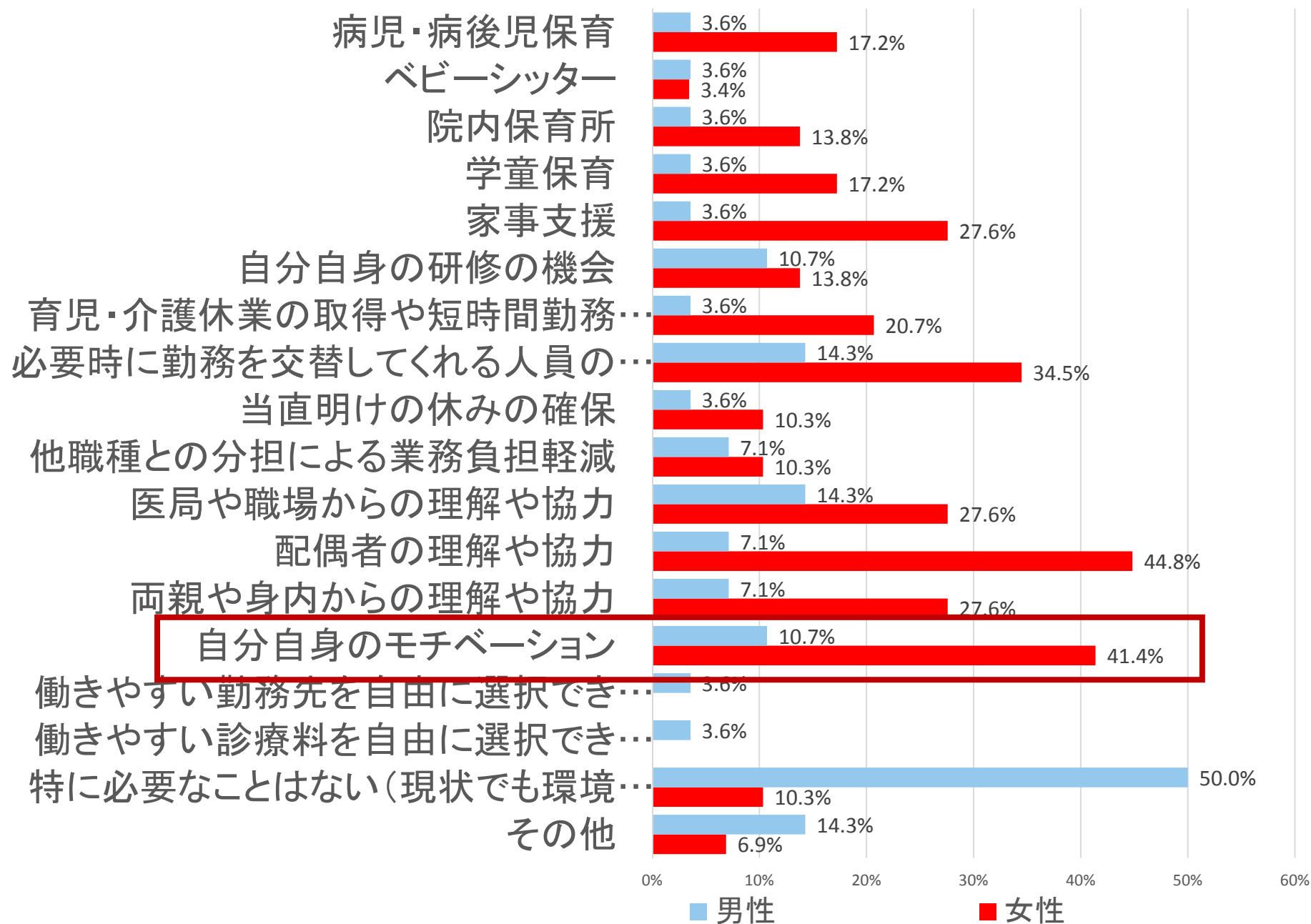
女性



- 不足している専門科のため病院から要請があった
- 研究等の時間を確保する必要があるため
- 収入が必要なため
- 複数の病院で知識・技術を習得したいため
- 育児のため
- 配偶者の転勤のため
- 家庭、家事との両立が困難なため
- 体調不良、体力の限界のため
- 出産のため
- その他



# 週40時間勤務に戻るために必要なこと(性別)(複数回答)



### 齊藤みずき先生(日本海総合病院:救急科)

妊娠、出産、育児で得られる経験は何物にも代えがたいですし、それを仕事に還元していくことで**地域医療に貢献できる**と考えています。



### 鈴木恵美子先生(山形県立中央病院:小児科)



各種支援制度や職場の方々のサポートで大変助けられ、そのおかげでこうして今も医師を続けられています。いくら感謝してもしきれないという気持ちは、ぜひ皆さんにお伝えしたいです。

### 阿蘇里佳先生・渋谷りか先生(日本海総合病院:消化器内科)

仕事もしながら家庭を持ちたいと思っているのであれば、諦めないこと、充実した仕事ができるかどうかは、その人の**モチベーション**次第だと思います。

**子育てしながら仕事を続ける**なら、謙虚な姿勢と、細々と続けていくのと、周囲とあまり比べすぎないのが大事なのかなと感じています。



### 阿部暁子先生(山形市立病院済生館:小児科)



医師になろうと思ったからには、勤務状況などに関係なく、**医療に携わり続ける姿勢**が大事だと思うので、その時その時にやれることをやるのが、続けていくことに繋がると思います。

### 三條加奈子先生(医療法人三條医院:小児科)

どうしても周りの人のサポートは必要だと思いますので、その人たちに感謝し、**医師を続けていく道を探りながら**生活していただきたいと思います。



### 和田輝里子先生(寒河江市立病院:内科)



あまり欲張らないで、全部自分でやろうとすると無理が生じるので、育児中は自分のできる範囲でやるのが良いと思います。

### 星川民恵先生(山形県立中央病院:麻酔科)

焦らず、女性が働きやすそうな診療科を**自分で感じて**、将来を見据えた診療科選びが大事だと思います。



## 女性医師支援についてまとめ

- 今回の調査で、女性医師が離職せずに働き続けるには、配偶者の理解や協力、必要時に勤務を交替してくれる人員の確保など、周囲の援助が重要であり、**自分自身のモチベーション**の維持も必要であることがわかった。
- モチベーションを高める方策の一つに、**ロールモデル**があるが、ビジネスの場では年齢が離れすぎない5~10歳上の「ブラザーシスター制度」が推奨されている
- 山形県医師会では身近な先輩女性医師のインタビューを通じて、様々なロールモデルの提示を試みている(悩みはHPアクセスが少ないこと)

ご清聴ありがとうございました

